

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2019年 8月

「彼を知るために」「完全に自由の律法（1）」「神の栄光ともう一つの声」「山形のだし」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

完全に自由の律法 (I) 4

聖書の教え

朝のマナ

彼を知るために 8

That I May Know Him

現代の真理

「神の栄光ともう一つの声」 40

神の栄光ともう一つの声

力を得るための食事

「山形のだし」 46

レシピ

お話コーナー

「ユダ」 48

イエスの物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465 FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス www.4angels.jp

メール support@4angels.jp

発行日 2019年6月30日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: iStock on Front page, Sermon View on page

38

キリストの教育法 (IV)

—ユダに—

(「教育」86-100より)

イエスは弟子たちをしかり、戒め、注意をお与えになった。…イエスは、人々を、すべての欠点や弱さを持ったまま受け入れ、彼らが、喜んでキリストのしつけと教えを受けるなら、ご自分の奉仕のために彼らを教育されるのである。

しかしここに、イエスから一言も直接にしかられなかった弟子がひとりあった。

…

ユダはイエスとの交渉をもつようになってから、イエスのご品性と生活に心をひかれていた。彼は、生まれ変わった者になりたいと心から願い、またイエスとのつながりを通して、そうした経験をもちたいと望んでいた。しかしこの願いは、彼の心の全部を占領するまでには至らなかった。…ユダは、キリストの愛という天来の力を見とめながら、しかもその主権に屈服しなかった。彼は心の中に自分の判断と意見を、また人を批評し、非難する傾向を持ち続けた。…

イエスは、反対は心をかたくなにするばかりであることをご存じであったので、ユダと直接に衝突することを避けられた。キリストはご自身の犠牲的な愛との接触を通して、ユダの狭量で利己的な生活を直そうと努められた。キリストは、ご自分の教えの中にユダの自己中心的な野心を根底からくつがえすような原則をお示しになった。教訓は幾度かくりかえされた。そしてユダは、そこに自分の性格が描かれ、自分の罪が指摘されていることを幾度も認めた。しかし彼は屈服しようとしなかった。…ユダは、自分の魂を貪欲という悪魔に売り渡し、主を裏切る決心をした。…

「イエスは、初めから、だれが信じないか、また、だれが彼を裏切るかを知っておられたのである」とある。すべてを知りながら、しかもなおイエスは、恵みの訴えや愛の賜物を惜しまれなかったのである。

ユダの危険をごらんになったイエスは、彼をご自分のそばに近づけ、ご自分が選びそして信頼している弟子たちの仲間にお入れになった。来る日も来る日も、ご自分の心に重荷が重くのしかかっているときに、キリストは、この強情で疑い深く何事かたくらんでいる男と朝から晩まで顔をつきあわせていなければならない苦痛を忍ばれた。たえまないひそかな陰険な反抗心を弟子たちの間からなくすために、キリストは証拠を示してほねおられた。すべてこうしたことは、危険に瀕した魂を救い得る力として欠くことのできないものである。

「愛は大水も消すことができない、洪水もおぼれさせることができない。…愛は死のように強」い(雅歌 8:7)。

第12課 完全に自由の律法 (I)

律法は調和をもたらす

ボストン・ティー・パーティー事件は、植民地であったアメリカの植民地とイギリス間の独立戦争の勃発を引き起こした歴史的な出来事でした。茶の取引に課せられた税金に関する不当な規制により、初期のアメリカの先駆者たちはただちに、「自由を与えよ、さもなくば死を与えよ」と言う立場を取りました。真の自由がなければ、人生は生きた死となります。しかしながら、いつでも自由という見せかけの下であらゆる制限を回避しようとする傾向があり、それは実際には、許可というよりはむしろ法に対する反逆なのです。わたしたちの権利、財産、きよく道徳的な生活を守る法を支持することは、真に自由の法の下で生きることです。

全ての被造物の調和は、創造主の律法に対する完全な従順に依存しています。生存しているあらゆるものや被造物だけでなく、無生物や惑星の活動のためにも、神は秩序と統治のための律法を制定されました。神の律法は、立法者と同様に、完全であり神聖です。それは、神の意思の啓示であり、また神のご品性の写しであり、このお方の愛と知恵の表現です。すべてのものは、律法に支配されており、その律法を軽視すると罰せられます。しかし、自然界に存在する全ての物が自然の法則によって支配されている一方で、人には神の道徳的な律法に従うというより大きな責任があります。主はわたしたちが神のご要求とご自分の律法の正義を理解し、神の律法の神聖な要求を把握するための能力と知恵を授けてくださいました。法律がなければ、統治は存在しえませんし、無政府状態が支配するところはどこでも、混乱と苦難があります。わたしたちは、自分たちの現代において、律法のない状態を知りすぎています。それが起こると、暴力、生活と財産の破壊が続き、すべての人が「自由」と叫びます。しかし、真の自由は何からなっているのでしょうか。

神の律法—不変にして完全

この全宇宙は、神に依存しています。神は、この世に生存している全ての物を、

変わることがない自然の法則によって支え、維持しておられます。もし、これらの法則が変化するものであれば、すべてのものは混乱に陥り、科学は無意味なものとなり、わたしたちは神や神の御言葉を信じることができなくなります。しかし、これらの法則は永遠のものであり、神ご自身と同様に変化することがありません。

「あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の父から下ってくる。父には、変化とか回転の影とかいうものはない。」(ヤコブ 1:17)。

「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全なものとなりなさい。」(マタイ 5:48)。

もし、神が変わることがおできになるなら、完全であることが止むでしょう。わたしたちを取り囲むすべての事柄は変化の下にあります。わたしたちの天父は、愛、永遠、そして不変の神であられるのです。

「愛さない者は、神を知らない。神は愛である。」(第一ヨハネ 4:8)。

わたしたちが幸福に満足して存在するために、従って生きるべき一連の規則を、愛であるお方が与えて下さったことを知ることは、なんとすばらしいことでしょう。わたしたちは、神のご臨在のうちに宿りながら、恐れなく完全で満ち満ちた生活をおくる機会が与えられているのです。

神の道德律は完全である

「主のおきては完全であって、魂を生き返らせ、主のあかしは確かであって、無学の者を賢くする。」(詩篇 19:7)。

自然の法則が変化しないのと同様に、道德律が変化することはありえない。詩篇 119 篇には、神の道德律は「純粹」、「真理」、「義」であると描写されています。これらは神ご自身の性質そのものであり、道德律は、神の性質の写しであることを示唆しています。

「そのみ手のわざは真実かつ公正であり、すべてのさとしは確かである。これらは世々かぎりなく堅く立ち、真実と正直をもってなされた。」(詩篇 111:7,8)。

「これに反して、完全に自由な律法を一心に見つめてたゆまない人は、聞いて忘れてしまう人ではなくて、実際に行う人である。こういう人は、その行いによって祝福される。」(ヤコブ 1:25)。

本当の自由は、従順の中にある

大変奇妙なことに、クリスチャンであると自称する人々の多くは、神の律法が廃止されたと主張しています。神の律法は、たびたび、奴隷のくびきであると非難されています。しかし、実際に自由を奪われているのは、律法に違反する者です。この点は、民法の面から真実であり、まったく同様に、道徳律にもあてはまります。そのため、ヤコブは第1章25節において、神の律法は自由の律法であると言及しているのです。

「しかし、もしあなたがたが『自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ』という聖書の言葉に従って、このきわめて尊い律法を守るならば、それは良いことである。しかし、もしわけ隔てをするならば、あなたがたは罪を犯すことになり、律法によって違反者と宣告される。なぜなら、律法をことごとく守ったとしても、その一つの点にでも落ち度があれば、全体を犯したことになるからである。たとえば、『姦淫するな』と言われた方は、また『殺すな』とも仰せになった。そこで、たとえ姦淫はしなくても、人殺しをすれば、律法の違反者になったことになる。だから、自由の律法によってさばかれるべき者らしく語り、かつ行いなさい。」(ヤコブ 2:8-12)。

神の律法は、モーセの時代よりも前から存在していた

創造のとき、人間は完全であり、罪の跡はありませんでした。そして、神は人に従うことを自由に選ぶ力をお授けになりました。唯一の制約は、善悪を知る木に関するものでした。最初の夫婦が神に従わなかったとき、彼らはその瞬間まで享受していた完全な自由と幸福を失いました。彼らは、サタンの臣民となりました。彼らは、かつて持っていた純潔な品性を失いました。彼らは、園で暮らし続けることを望みましたが、そうすることはできませんでした。彼らは、墮落した性質をもつようになり、神の律法を守ることができなくなり、神との調和を保持することができなくなりました。

「あなたがたは知らないのか。あなたがた自身が、誰かの僕になって服従するのなら、あなたがたは自分の服従するその者の僕であって、死にいたる罪の僕となり、あるいは、義にいたる従順の僕ともなるのである。」(ローマ 6:16)。

自分自身の人間の性質に対して、心のうちに恨みをおいてくれる救いの計画が存在しなければ、人類にとって希望はありませんでした。本当の自由は、神の律

法に対する自発的な従順にかかっています。人間が神に従わないとき「かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くな」りました(ローマ 1:21)。

神の律法に関する知識は、アダムとエバから後の世代に受け継がれました。アブラハムは、ノアの洪水の後に生存し、記されたかたちで律法が存在するよほど前でしたが、神の戒めに精通していました。

「アブラハムがわたしの言葉に従ってわたしのさとしとし、いましめと、さだめと、おきてとを守ったからである。」(創世記 26:5)。

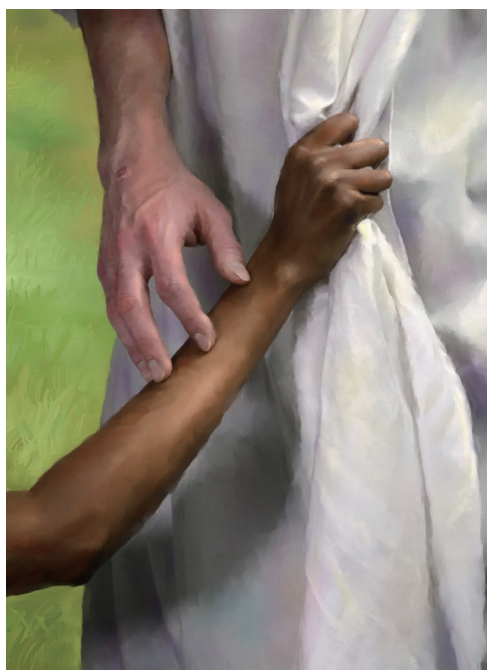
わたしたちの救い主イエスは、当時の宗教指導者たちから、多くの場合、神の律法を変えたとして非難されました。その非難に対するイエスの回答はどのようなものでしたでしょうか？

「わたしが律法や預言者を廃するためにきた、と思っはならない。廃するためではなく、成就するためにきたのである。よくよく言っておく。天地が滅びゆくまでは、律法の一点、一画もすたることはなく、ことごとく全うされるのである。それだから、これらの最も小さいいましめの一つでも破り、またそうするように人に教えたりする者は、天国で最も小さい者と呼ばれるであろう。しかし、これをおこないまたそう教える者は、天国で大いなる者と呼ばれるであろう。」(マタイ 5:17-19)。

パウロが十戒の重要性を説明したとき、律法を成就することがさらに明確にされました。「互いに愛し合うことのほかは、何人にも借りがあつてはならない。人を愛する者は、律法を全うするのである。」(ローマ 13:8)。

彼を知るために

That I May Know Him



8月

王の臣民

「主はわれわれのさばき主、主はわれわれのつかさ、主はわれわれの王であって、われわれを救われる。」(イザヤ 33:22)

今朝(1900年9月5日)、わたしの魂は、すべての恵みと祝福を与えてくださる神に対する讚美と感謝の念に満たされた。主は恵み深く、彼の憐みはとこしえに続く。わたしは、わたしの顔の光であり、わたしの神であられる主を讚美する。主はすべての能力と力の源である。わたしたちはなぜ、他人に望みと慰めの言葉を語ることによって主を讚美しないのであろうか。なぜ、わたしたちの唇はこんなにも沈黙しているのだろうか。話すことは天の賜物であって、それは、わたしたちを暗闇から驚くべきみ光に招き入れてくださった主を讚美するために用いられるべき声である。……

もしクリスチャンと公言するすべての人によって神があがめられるならば、どれほど多くの良いことが成し遂げられることであろう。……世の光は、この上なく豊かな祝福をもって人々の上に輝いている。わたしたちの肉体的、靈的必要を満たすため、すべての備えがなされてきた。それにもかかわらず与え主はなんと少ししか感謝を受けておられないことだろう。……

わたしたちの指揮者としてキリストを受け入れることにより、人間の意志は、完全に天の意志に明け渡さなければならない。主は、この明け渡した者を通して、み心をなすことがおできになる。なぜなら、彼らは主の命令に即座に喜んで服従するからである。神は、わたしたちが疑うことなく従うことを求められる。わたしたちは、「主よ、わたしに何をおさせになりたいのですか」と問うべきである(使徒行伝 9:6 英文)。その命令は、あるいはアブラハムに与えられた命令のように厳格で、おどろくようなものであるかもしれないがそれでも、わたしたちは従うべきである。アブラハムの心は、「あなたの子、あなたの愛するひとり子イサクを連れてモリヤの地に行き、わたしが示す山で彼を燔祭としてささげなさい」という命令によって引き裂かれた(創世記 22:2)。しかし、彼は従うことに躊躇しなかった。

わたしたちのすべての行動、わたしたちのすべての仕事の計画は、主の戒めに完全に調和すべきである。神のみ国の律法は、その国の臣民によって遵守されるものでなければならない。神のみ国が前進するためのわたしたちの熱望は、わたしたちをキリストの十字架の忠実な臣民として特徴づけるものである。神は、ご自身に絶対的に従う者たちを、ご自分の代表者として信用することがおできになる。(原稿 96,1900年)

8月2日

主人の代わり

「管理者に要求されているのは、忠実であることである。」(コリント第一 4:2)

管理者は、自分を主人の立場におく。彼の主人の関心は、彼の関心となる。彼は管理者としての責任を受け入れたので、主人が、自分自身の財産を管理しているなら、するであろうと思われることを主人の代わりにしなければならない。その地位は高く、その立場にいる者を主人は信頼する。もし管理者が、少しでも利己的な行動を取り、主人の財産の利益のためになすべきことを、彼自身の利益のためにしたならば、彼の上に置かれていた信頼を悪用したことになる。主人はもはや彼を信頼すべき僕、頼ることの出来る者として見るができない。

どのクリスチャンも神の財産をゆだねられた神の管理者である。クリスチャンであると主張する者には、だれであっても主の財産を賢く取り扱わせなさい。神は、あなたに貸している金銭、あなたに与えた霊的賜物の明細目録を作っておられる。あなたは管理人として目録を注意深く作っているだろうか。あなたは神があなたの責任の下に置かれた主の財産を経済的に用いているか、それとも、虚飾のために、利己的な支出によって神の財産を浪費しているかどうかを吟味しているだろうか。不必要なことに費やしているものがあればそれをすべて天に宝として積み上げようではないか。(ビュー・アンド・ワールド 補足 1898年6月21日)

個人の、家族の、あるいはどのような機関の収入や財産がいかに大きくても、彼らは、単に家令であって、主の金銭を信用してまかされているだけであることを覚えなければならない。すべての利益、すべての給与、わたしたちの時間、わたしたちのタラント、わたしたちの機会は、すべてを与えてくださっている主のためのものであると考えるべきである。……

神は、すべての自分の力や、神から与えられた才能を、最善に用いる準備のできている忠実な管理者を励まされる。神に支払われるべきものを忠実に神に返すという教訓をすべての者が学ぶ時、ある者には神はみ摂理を通してたくさん の捧げ物を持参することを可能にしてくださる。そして、他の者にはより少ない捧げ物をできるようにおさせになる。それは少なくとも多くてもその捧げ物が神の栄光だけを眺めて捧げられるのであれば、神に受け入れられる。(ビュー・アンド・ワールド 1912年4月18日)

主のご計画の支持

「わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさいと、万軍の主は言われる。」(マラキ 3:10)

わたしたちは財産を自身のもの、また、自分の好きなように使って良いものと思ふべきではない。それは、主のものであり、主が定められた計画に従って管理されるべきである。(ビュー・アノド・ヘラド 補足 1898 年 6 月 21 日)

神は、すべての主の管理者たちが、正確に天の計画通りに従うことを望んでおられる。彼らは人間である自分たちが見てよいと思う時や方法でなす慈善行為や施し、あるいは献金で主のご計画を相殺すべきではない。神は、ご自分の計画をだれにでもわかるようにされた。だから主と協力するすべての者は、彼ら自身の計画によって改善を試みたりしないで主のご計画を遂行するのである。……神が彼らに名誉を与え、彼らのために働かれる。なぜなら、わたしたちは、主が天の窓を開いていて、受け入れる場所がないほど、たくさんの祝福を注ぎだすという主の誓いの言葉を持っているからである。

神のご計画を人間が改良しようとする事、一時しのぎの方法を作り出そうとすること、神によって要求される事柄のすべてに対して、あれこれと例を持ち出して自分たちの善良な衝動を標準としてそれらで埋め合わせることは非常に愚かなことである。……わたしたちは、十分の一について真実で忠実な計算をするべきである。それから、主に、わたしはあなたが命じられたようにいたしました」と言うのである。もし、あなたがわたしを信用してあなたの財産を管理させることによって、わたしに誉れを与えてくださるならば、あなたの恵みによって、わたしは忠実な家令となり、あなたの家に食物をもたらしようにわたしの力のすべてを尽くしますと言うのである。

大きな責任を持っている人は、大なり小なり、マラキ書にはつきり述べられているように、自分の関係することについて神のものを盗んではいけないことを確認すべきである。祝福は十分の一を忠実に納める者に与えられ、倉に運ぶべき金銭を貪欲に貯える者には、災いがあることが教えられている。それならどのような咎めの影も、わたしたちの上に落ちないように、信頼して貸し出されている財産を扱うことによって神と働き、安全な側にあるべきではないであろうか。……神は忠実な者を祝福なさらないことがあるだろうかと問う必要はない。わたしたちは主の誓われた言葉を持っているのである。(同上)

8月4日

サタンの罠に気をつけよ

「富むことを願い求める者は、誘惑と、わなとに陥り、また、人を滅びと破壊とに沈ませる、無分別な恐ろしいさまざまの情欲に陥るのである。」(テモテ第一 6:9)

サタンは、野鳥を捕る者の罠のように、魂を陥れるために万全に準備した網と罠とを持っている。人間が神から与えられた力を神の栄光のために用いる代わりに、利己的な目的のために使わせることこそ、サタンがよく研究している目的である。神は、人間が、平和と喜びをもたらし、永遠の利益を与える働きにつくよう望んでおられる。しかし、サタンは、用いることにより減ってしまうような事柄、益にならないような事に、わたしたちが自分の努力を集中するように望んでいる。

.....

人間の心は、聖霊の住まわれるところである。理解を越えるキリストの平和が、あなたの魂にとどまり、主の恵みの改変する力は、あなたの生活の中で働き、あなたを栄光の宮殿にふさわしい者とする。しかし、もし頭脳と神経と筋肉がすべて自己の奉仕のために費やされるならば、あなたは、神と天とをあなたの生活の中で第一に考えていないことになる。自分のすべての力を世の側においている限り、あなたの品性にキリストの恵みを織り込むことは不可能である。自己の栄光のために宝をこの地上に積むことに成功するかもしれない。しかし「あなたの宝のある所には、心もあるからである」のであって(マタイ 6:21)、永遠を思うことは、二番目に重要な事とされてしまう。あなたは、礼拝の外面的な形式に参加するかもしれないが、あなたの礼拝は、天の神にとっては、忌まわしいものである。

.....

もし、目がただ一つのこと、天を向いているならば、天の光が魂に満ちて、地上の事柄は、取るに足らない、魅力のないものに見えてくる。心の目的は変化し、イエスの忠告に注意を払うようになる。あなたは天に宝を積むようになる。あなたの思想は、永遠の偉大な報酬に集中する。あなたの計画は、すべて将来の不死の命に関して立てられるであろう。あなたは、自分の宝の方に引き付けられる。自分の世的な興味に心を用いるのではなく、あなたが追及するものは「主よ、わたしは何をしたらいのですか」という静かな問いだけになるであろう(使徒行伝 9:6 英文)。聖書の宗教は、あなたの日々の生活に織り込まれるのである。(ビュー・アード・ハラド 1888年1月24日)

わたしたちの宝にとって安全な場所

「あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。あなたの宝のある所には、心もあるからである。」(マタイ 6:19-21)

かつてどんな人も語ったことのないように語られた偉大な教師の言葉に注意しなさい。もしあなたがこの人生で最善の関心事をなそうと思い、あなた自身のために永遠の宝を積もうと思うなら、彼は追及すべき道をあなたの前におかれる。「自分のために地上の宝をたくわえてはならない。」世の利益を追求すると、すべてを失う危険がある。なぜならば、地上の宝を熱心に求めることにより、もっと高貴な関心が忘れられるからである。……

もし、あなたの思いや、計画また目的がすべて地上の財産に向けられるならば、あなたの心配や努力、あなたの関心はすべて世の中のことに集中してしまう。天の魅力はその美しさを失う。永遠の世界の栄光は、あなたに対して現実の力を持たなくなってしまう。あなたの心は、あなたの宝と共にある。あなたの意識のすべての能力が、あまりにもあなたが選んだ仕事に集中しているので、神のみ言葉と、神の御霊の警告と懇願にあなたは注意しなくなる。サタンの罠から逃れるために聖書を学び、この上なく熱心に祈る時間がなくなる。(ビュー・アンド・ワールド 1888年1月24日)

あなたの財産を上なる世界に移すこの働きは、あなたの最善の力を使うだけの価値がある。それは、最高に重要なものであり、あなたの永遠の事柄にかかわるものである。あなたが神のために捧げられるものは失われることはない。魂の救いと神の栄光のために与えられるすべてのものは、この世と、来るべき世において、最も成功する事業に投資していることになるのである。あなたの金や銀のようなタラントが、両替人に与えられるならば常に利益を受けて天の王国のあなたの口座に書き込まれることになる。両替商人の手で増えた永遠の富の受取人となるべきである。神の働きのために捧げられる時、自分のために天に宝をたくわえているのである。上にたくわえたものはすべて、災害や、損失から守られ、永遠の、そして永続的な財産として増加していく。(同上)

8月6日

必要を満たすための神の宝庫

「わたしの神は、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたのいっさいの必要を、キリスト・イエスにあって満たして下さるであろう。」(ピリピ 4:19)

神の子供たちは、キリストの代表者になって主の恵みと憐みを人々に示すようにと、召されている。もし、神の優しさを日々現わしさえするならば、悪の誘惑に対抗して、防壁が彼らの魂の回りに立てられるのである。……

神はわたしたちの必要を知っておられて、それらを与えてくださる。主はご自分の子供たちの必要を満たすための宝庫を持っておられ、あらゆる環境の下で彼らが必要とするものを与えることができになる。それならばどうしてわたしたちは主により頼まないのだろうか。主は主の命令に忠実に従うことを条件に、主の子供たちに尊い約束をされた。主が取り除くことのできない重荷はなく、追い払えないやみはなく、力に変えることのできない弱さもなく、静めることのできない恐れもなく、主が導き、義とすることのできない尊い向上心もない。

わたしたちは自分自身を見つめるべきではない。自分の不完全さについて考えれば考えるほど、それを克服すべき力を失う。わたしたちは喜んで神に奉仕すべきである。主を同情と憐みにかけた方として示すのはサタンへの働きである。……サタンの誤り伝えたことを自分の心にしっかりとどめ、神を信じないでつぶやくことにより、神の名誉を汚している。死の宣告を受けた被告人のように行動する時、わたしたちは神に対して偽りの証をしている。天父はひとり子であり、愛する御子をわたしたちのために死に渡された。その行為によって人間は偉大な栄誉を与えられた。なぜなら罪によって切られた網は再びキリストにあって結合され、人間はもう一度天とつながれたからである。

神の憐みを疑うあなたは、神の小羊を見なさい。あなたの悲しみを負い、あなたの罪に苦しんだ悲しみの人を見なさい。彼はあなたの友である。彼はあなたを愛するゆえに十字架の上で死なれた。彼はあなたの弱い感情に触れられ、み座の前であなたを支えられる。主の、言葉に尽くせない愛を見る時、望みと愛と感謝があなたの心に抱かれなくてだろうか。神に対するあなたの奉仕を喜びが満たさないでだろうか。(ビュー・アソド・ハルド 1890年1月14日)

決して間違いのない避け所

「何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。」(ピリピ 4:6)

神の民が心配事に打ちひしがれてしまうのは、神のみ心ではない。しかし、主はわたしたちを欺かれない。主はわたしたちに、「恐れることはない。あなたの道に危険はない」とは仰せにならない。主は試練と危険のあるのを知っておられる。そして、主はわたしたちに対して率直な態度で臨まれる。主は罪と悪の世界からご自分の民を取り去ろうとはなさらない。しかし、主は決して間違いのない避け所を示される。……

わたしたちは罪深く、弱さに囲まれているがイエスはわたしたちを愛しておられるのであろうかと尋ねることによって、疑いの中に居続けることができるだろうか。主はわたしたちをすべての悪から贖うため、そして、よい働きに熱心な特別の民をご自分の清さにまで清めるために、ご自身を与えられた。主は人の道を取りまわっている悲しみと誘惑をよく知るために、また主の提供されている安息と平安をもって、疲れた者をどのように助けるかを知るために卑しい人間の姿を取って、わたしたちの世界に来られた。しかし何千もの人々が主の助けを拒み、ただ心配という自分たちの重荷をますますしっかりと握りしめているのである。主は苦しんでいる人々のところに来られ、そして、彼らの悲しみをいやそうと申し出られる。失望した人々や懐疑的な人々、そして不幸な人々に対して、主は彼らのために用意しておられる住まいを示して、足ることを知るように勧められる。……わたしたちの尊い救い主であるイエスが、わたしたちの思想と情熱の第一に来るべきであって、わたしたちは完全な信頼を持って主により頼むべきである。……

日毎に、わたしたちはイエスの力を受けて試練と誘惑に備えなければならない。もし、一日でも失敗するならば、次の重荷を加えることになり、力が減ってしまう。現在の不注意によって将来を曇らせるべきではない。そうではなく、思慮深く、また注意深く今日の義務を行うことによって明日の危急に会う備えをしなさい。

わたしたちは喜びの精神を養う必要がある。……わたしたちはいつも人生の明るい面を見つめ、望みに満ち、愛とよいわざに満ちるようにしよう。常に主を喜び、「キリストの平和が、あなたがたの心を支配するように」そして「感謝していなさい」(コロサイ 3:15)。(ビュー・アンド・ワルド 1885年2月3日)

8月8日

向上する信仰

「信仰がなくては、神に喜ばれることはできない。なぜなら、神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることとを、必ず信じるはずだからである。」(ヘブル 11:6)

わたしたちが主から大きな祝福を期待すべき時が来ている。わたしたちは信仰に関して、もっと高い標準に立たねばならない。わたしたちはあまりにも小さな信仰しかもっていない。そのみ言葉は、わたしたちの保証である。その保証を受け入れ、単純に一つ一つの言葉を信じなければならない。この保証のために、わたしたちは大きなことを求めることができるのであり、わたしたちの信仰に応じて、それが自分たちのものになるのである。……

信仰の働きは、わたしたちが考えている以上のものを意味している。それは、ありのままの神のみ言葉に真心から信頼することを意味する。わたしたちの行動によって、わたしたちは神が言われた通りになさることを信じているということを示すべきである。自然と、み摂理の両輪は、後戻りしたり、止まったりするには定められていない。わたしたちは前進する、働く信仰、愛によって働き、自我のあらゆる痕跡から魂を清める信仰を持たねばならない。わたしたちがより頼まなければならないのは、自我ではなく神である。わたしたちは不信仰を心に抱いてはならない、わたしたちはみ言葉通りに神を受け入れる信仰を持たねばならない。……

真の信仰は、神が命じられた通りのことをなすことにあるのであって、神が命じられなかったことを作りあげるものではない。正義と真理また憐みは信仰の実である。わたしたちは神の律法の光の中を歩む必要がある。その時、よい働きが、わたしたちの信仰の実となり、その結果、心は毎日新しくされる。良い実をならせる前に木はよく手入れされなければならない。わたしたちは全く神に献身しなければならない。わたしたちの意志は良い実を結ぶ前に正しくされていなければならない。どのような変わりやすい宗教も持つてはならない。「何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである」(コリント第一 10:31)。

なんという畑がわたしの前に開かれていることであろう。わたしたちの民に、毎日神の御霊の深い働きがなければならない。彼らは愛によって働く信仰、神から発せられる信仰を持たねばならない。利己主義の糸が、織物の中に織り込まれてはならない。キリストがご自分の生涯で表されたような愛によってわたしたちの信仰が働く時、それは堅固な織物となる。それは服従した意志という実となる。しかし、自我が死ななければ、キリストは、わたしたちの中で生きることがおできにならない。自我が死ぬまで、わたしたちは愛によって働き、魂を清める信仰を持つことができない。(手紙 105,1898)

危険な客

「イエスは彼らに言われた、『なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか。』」(マルコ 4:40)

なぜ、わたしたちはこんなにも信仰が弱いのであろうか。……わたしたちはあまりにも不信仰で懐疑的であるために、主はしたいと切望しておられることをわたしたちのためにすることがおできにならない。わたしたちの心には非常に悲しむべき、そして払いのけることの難しい疑いがある。

魂を屈服させようとするこれらの疑いに、わたしたちは、一つ一つ勇敢に立ち向かって、それらを直ちに克服しなければならないということを魂に命じるべきである。遅らせてはならない。なぜなら、それらは、気の毒な魂をつまずかせる原因となるかもしれないからである。神のみ言葉の光の中でそれらを吟味しなさい。それから、あなたの手の中にあるイエスの約束のみ言葉をもって、イエスとそれらについて話し合いなさい。そして、それらが取り除かれるように祈りなさい。「信じます。不信仰なわたしを、お助けください」と主に告げなさい(マルコ 9:24)。疑いに快適な安楽椅子を与えて座らせてはならない。疑いが心の中に長くどまり、信仰に逆らうままにして置かれる時、疑いは危険な客となる。

純粋な信仰は命であり、命のあるところには成長がある。イエスが与えられた命は、ますます豊かに成長せざるを得ない。生きた信仰は、活動力の増進、また完全にゆだねる信頼を意味する。それによって魂が勝利する力となるイエスが与える命の水を飲む者は、自分自身の中に、永遠の命へと湧き出る泉を持つのである。それはすべての作られた泉から切り離されることはあっても、隠された泉から養われるのである。それは、止むことのない泉であり、命の無尽蔵の泉に直接につながっているのである。

主は、主の名をとる者かだれでも空虚である時、辱めを受ける。これは、神を誤り伝える。精神と命と品性に現わされたキリストのほか、神を知らない世界に対して神をあらわすことはできない。神と、神が送られたイエス・キリストを知る知識によって新たにされた魂は生きた成長する経験の中で神の満ち満ちた徳の高さ、すなわちすべてのものに満ち満ちている主の徳さえもあらわすのである。(手紙 70,1897)

8月10日

疑いに勝利する

「イエスはすぐに手を伸ばし、彼をつかまえて言われた、『信仰の薄い者よ、なぜ疑ったのか。』」(マタイ 14:31)

「なぜ疑ったのか」とキリストは沈もうとするペテロに言われた。同じ質問がわたしたちに向けられている。……主はわたしたちが立つことができる力を与えると誓われた。わたしたちが聖書を探求する時、確信の土台、充足のための備えを見出すことができる。主がわたしの助け主である。それゆえ、わたしは、わたしの確信から動かされることがないと勇敢に、しかも謙遜に言うことはわたしたちの特権である。わたしの命はキリストと共に神のうちに隠されている。主は生きておられ、それゆえにわたしもまた生きている。わたしたちは、失望や不信の言葉を語って、神を辱めるようなことをしないと神と天のみ使いの前に誓おう。不信に対しては扉を閉め、信仰に対しては扉を広く開きなさい。魂の宮に天来の客を迎えなさい。(ビュー・アズ・ワールド 1896年6月9日)

あなたはだれに自分の心を支配させ、自分の思考を統御させるかを選ぶことができる。もし悪意の暗示に扉を開くならば、あなたの心は、不信と反抗的な疑問に満たされる。あなたは、自分の感情を思いのままに話すかもしれない。しかし、口に出すすべての疑いは、他の命の中で芽を出し、実を結ぶ種である。そして、あなたの言葉の影響を消すことは不可能である。あなたは、誘惑の時機から脱するかもしれない……。しかし、あなたの影響によって動揺させられた他の人は、あなたが、暗示した不信から逃れることができないかもしれないのである。わたしたちが霊的な力と悟りを与えることだけを自分の周りの人に話すというのはなんと大切な事であろう。(同上 1890年2月11日)

わたしたちが信仰をもつために信仰を励まし、信仰を語ることは、わたしたちの義務である。もし疑いを口にし、強めるなら、もっと疑いを持つようになる。なぜならば、サタンは、こういった仕事をわたしたちがするよう助長するからである。わたしたちには清められた心と清められた唇が必要である。天のカナンから吹いてくる豊かで心をさわやかにする大気の中で呼吸する必要がある。……なぜ心の画廊に疑いという暗い景色を飾るのであろうか。なぜ義の太陽の明るい光線を、心と精神の部屋に差し込ませ、不信の影を追い払わないのであろうか。光であられる尊い救い主イエスに立ち帰りなさい。(UNDATED MS,23)

神が受け入れてくださる信仰

「靈魂のないからだが生んだものであると同様に、行いのない信仰も死んだものなのである。」(ヤコブ 2:26)

救いにすべて必要なのは信仰を持つことだけであるという人がクリスチャンの世界において多くいる。働きは価値がなく、信仰が唯一不可欠なものであるという。しかし、働きのない信仰は死んだものであると、神のみ言葉はわたしたちに告げている。……信仰と働きは手と手を携えていくものである。……働きがわたしたちを救うことは決してできない。わたしたちのために益となるのは、キリストの功績である。主にある信仰を通して、キリストはわたしたちの不完全な努力を神に受け入れられるものにしてくださる。わたしたちが持つように要求されている信仰は何もしない信仰ではない。救われる信仰とは、愛によって働き、魂を清める信仰である。怒りや疑いなく、信仰心の深い手を神のほうへ高くのべる者は、神の戒めの道を賢く歩むのである。

もしわたしたちが罪の許しを得たいと思うならば、まず第一に、罪が何であるかをはつきりと理解しなければならない。わたしたちは自分たちの信仰のために揺るがない土台を持たなければならない。そして悔い改めと、悔い改めにふさわしい実を結ぶようになるのである。それは神の言葉の上によすられなければならない。そして、その結果は、神が表されたみ旨に対する従順のうちに見られる。……信仰と働きは、わたしたちを調和の取れたものにしてクリスチャン品性を完全にする働きにおいて成功させるものである。……わたしたちは、この地上歴史の最も重要な、また関心深い時代に生きている。今までよりもっと大きな信仰が必要である。わたしたちは天からのものをもっとしっかりとつかむ必要がある。サタンはわたしたちに勝利するために全力を尽くして働いている。彼は、自分の働く時間が短いを知っているからである。……

罪とか、怠惰には言い訳の余地がない。イエスは、道の先頭に立つておられ、そのみ足の跡にわたしたちが従うことを望んでおられる。主は、苦しまれ、わたしたちがだれもできないほどの犠牲を払われた。それにより彼は、わたしたちの手の届くところに救いをもたらされたのである。わたしたちは失望する必要はない。イエスは主の恵みによってわたしたちが主と同じさまに変えられるようにと人間に天の力を与えるためにこの世に来られた。だから心から神に従う時、この目的のために努力がはられる時、イエスは、この気持ちと努力を人間の最善の奉仕として受け入れられる。そして主ご自身の聖なる功績をもって不足分を補ってくださるのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1890年6月16日)

8月12日

信仰という植物を育てること

「使徒たちは主に『わたしたちの信仰を増してください』と言った。」(ルカ 17:5)

信仰は培われるべきである。もし信仰が病気の植物のようになり始めたなら、日光の当たる場所におき、注意深く水を注ぎ、世話をすべきである。主は光を大切に、その輝きの中を歩むようにと望んでおられる。神は、わたしたちが原因から結果をたどることができるように理性の力をもってわたしたちを祝福された。もしわたしたちが光を持ちたいならば、光に来なければならない。わたしたちは、福音によってわたしたちの前におかれた望みを個人的にしっかりとつかまなければならない。……地下室に行ってそこが暗いからと言って嘆くことはなんと愚かな事であろう。光を望むならば、わたしたちはより高い部屋に来なければならない。光の中に、そして神のみ前に来ることは、わたしたちの特権である。……

わたしたちはキリスト・イエスにあつて靈的に満ち満ちた高さにまで成長するために、日々信仰において成長すべきである。感情に頼るのではなく神が祈りに答えてくださることを信じるべきである。わたしの暗い感情は神が祈りを聞かれなかった証拠ではないと、わたしたちは言うべきである。わたしは、このような悲しい感情のためにあきらめたくはない。なぜなら、「さて、信仰とは、望んでいる事がらを確認し、まだ見ていない事実を確認することである」からである(ヘブル 11:1)。約束の虹が神のみ座のまわりにある。わたしは、神の忠実さのしるしを示している神のみ座に来る。そして、愛によって働き、魂を清める信仰を心に抱く。

わたしたちは、神がわたしたちの祈りを聞いてくださるのを感じたから、見たからと言って信じるべきではない。わたしたちは、神のみ約束を信頼すべきである。神がなすと言われたことを、その通りになされることを信じ、わたしたちが祈った祝福はわたしたちが一番必要としている時に、わたしたちのところにもたらされるということを信じて仕事にとりかかるべきである。すべての懇願は、わたしたちが信じるようになる時、神のみ心に入る。わたしたちは十分な信仰を持っている。地上の両親が子供を助けるよりもっとわたしたちを助けたいと望んでおられる天の父を見つめるべきである。なぜ御父を信じないのだろうか。

「ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか」(ローマ 8:32)。(手紙 97,1895 年)

信仰が大きければ平安も大きい

「あなたを恐れる者のためにたくわえ、あなたに寄り頼む者のために人の子らの前に施されたあなたの恵みはいかに大いなるものでしょう。」(詩篇 31:19)

わたしたちの信仰が、完全な信頼のうちに、キリストにしっかりと結び付いていればいるほど、より大きな平安がある。信仰は働かすことによって成長する。神の法則は一日単位である。日々、あなたはあたかも、天使、ケルビムやセラピムそして神とキリストの目の前で働いていることを意識して、その日のために働きなさい。あなたがたは「全世界に、天使にも人々にも見せ物にされたのだ」(コリント第一 4:9)。「わたしたちの日ごとの食物を、きょうもお与えください」(マタイ 6:11)。「あなたの力はあなたの年と共に続くであろう」(申命記 33:25)。「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つ」(ヘブル 12:2)。このように生活する時、聖霊は、わたしたちの記憶力を助け、すべての能力を清め、わたしたちが日毎にまた毎時間天父の保護と絶えることのない愛により頼んでいることをわたしたちに思い起こさせるのである。

これは小さな子供たちのように、天の父なる神に信頼する。一天の王国に入るために持たねばならないとイエスがその弟子たちに言われた一子供のような精神である。その時、サタンの誘惑を、識別し、もつとやすく抵抗できるようになる。なぜならば、心の中で絶えず神の近くに引き付けられているからである。そこには、非常に多くの魂を滅ぼす働きをなす自己満足の思いが繁栄するための環境がない。

「まず神の国と神の義とを求めなさい。そうすれば、これらのものは、すべて添えて与えられるであろう」(マタイ 6:33)。ここには、ご自分の言われるすべての言葉通りになさる方からの尊い約束がある。それでは、なぜ、わたしたちは恐れたり、寄り頼まなかったり、信じなかったりするのでしょうか。……わたしたちの時間は、主のものである。わたしたちのタラントも主のものである。それならどうしてだれも個人的に自分は神の御霊の支配下にはなく独立できる、すなわち、神のみ旨から独立し、神の摂理と計画から独立していると感じることができようか。……

「あなたがたのうち主を恐れ、……主の名を頼み、おのれの神にたよる者はだれか」(イザヤ 50:10)。……わたしたちは自分の心の想像力に従ってはい安全ではない。わたしたちは独立していることはできないのである。わたしたちの唯一の安全は、すなわちわたしたちの救い主である神に寄り頼むことである。(原稿 56,1893 年)

8月14日

信仰は暗黒の向こうを見る

「主に信頼して善を行え。そうすればあなたはこの国に住んで、安きを得る。」(詩篇 37:3)

「主を信じなさい。」その日その日に重荷、気苦労、当惑がある。わたしたちが、それらに会う時、その困難や試みをなんとなくやすく話してしまうことだろう。……ある人は常に恐れ、取り越し苦労をしている。毎日彼らは、神の愛のしるしに取り巻かれており、毎日、彼らは、神のみ摂理という恵み深さを享受している。しかし、彼らは、その現在の祝福を見過ごしている。……

どうしてわたしたちは、感謝を表さず、信じないでいられようか。イエスは、わたしたちの友である。全天は、わたしたちの幸福に関心を持っており、わたしたちの心配と恐れは、神の御霊を悲しませる。わたしたちは、試みに耐える助けにならず、ただ悩ませたり、疲れさせたりする心配事にふけるべきではない。あたかも、わたしたちの幸福が世の事柄にかかっているかのように考えて、生涯の最高の目標である将来のための準備ができるように導かれる神に不信を抱くことがないようにしよう。

あなたは、仕事で途方に暮れるかもしれない。前途は、ますます暗くなっていき、損失に脅かされるかもしれない。しかし、失望してはならない。自分の心配を神にあずけ穏やかで、快活にしていなさい。一日を熱心な祈りを持って始め、そして讚美と感謝を忘れてはならない。思慮分別を持って自分の仕事を処理する知恵を求めなさい。そのようにして、損失と災いとを防ぎなさい。望ましい結果を得るために、なしえる限りすべてのことをしなさい。……あなたのできる限りのことをして信頼できる助け主に寄り頼んだあとはその結果を快く受け入れなさい。世的な見地から見れば必ずしも利益を受けてはいないかもしれないが、しかし成功は、あなたにとって最も悪いことであつたかもしれない。……

わたしたちは、人生のすべての出来事において、神の栄光だけを見つめる必要がある。前途がどれほど暗くても神の約束をしっかりとつかむ、生きた信仰を必要としている。見える事柄だけを見、世の立場から判断し、また世の原則に支配されるべきではない。むしろわたしたちは、見えない永遠の事柄を眺めるべきである。(ビュー・アンド・ワールド 1885年2月3日)

考えるために時間を取る

「われわれは、自分の行いを調べ、かつ省みて、主に帰ろう。われわれは天にいます神にむかって、手と共に心をもあげよう。」(哀歌 3:40,41)

わたしは青年たちに自分の道を熟考し、考えるために時間をとり、自分たちの行動を量ってみるように懇願する。……今のあなたのように誘惑に取り囲まれている時には、主の義を信じる信仰を通して、あなたの心にキリストに住んでいただく以外に、悪に抵抗して十分に安全を守るものは何もない。あなたは、主をあなたの毎日の手本として、キリストの徳を実行しなければならない。……

良い品性は、偶然に生じるものではない。それは、忍耐強くたゆまない努力によって形成される。青年は神の栄光のために託されたすべてのタラントと能力を発達させることにより、自分に可能なことをすべて果たそうとすべきである。世の救い主は「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである」(ヨハネ 15:5)と言われる。あなたの個人的な救い主として、イエス・キリストを信じる信仰は、あなたの品性に力と堅固さを与える。キリストを信じる信仰を持つ者は、慎み深く、神の目が彼らの上にあることを、また、神のみ使いが、彼らがどのような品性を形成するかを注意して見ているということをいつも覚えている。……

将来の不死の命のために個人的にあなたが品性を形成するようにと、恵みの期間が、あなたに与えられている。貴重な黄金のような時があなたに与えられている。それは、主が恵み深く栄光のみ座から、あなたを照らして下さる光に従ってあなたが品性を向上させるためである。……キリストはこの世の中がかつて知った中で最も偉大な教師であられる。主が信仰によって心に住まわれるところでは主の御霊は、魂を潔め、そして生き生きとさせるために、生命を与える代理人となられる。……

心にある真理には、確かに品性を正しくする影響力がある。真理を神からのものとして、最高の宝として保ちなさい。真理の聖なる性質に全く調和しない悪い行いによって、真理が弱められたり、曇らされたりしてはならない。真理の神の聖なる影響の下で精神は強められ、知性は活気づけられる。そして、役に立たないところは、清く有益ものために捨てられる。真理の影響の下にクリスチャン品性は、唯一の真の神と、神が遣わされたイエス・キリストとを知る知識を通して、発達するのである。(ユース・インストラクター 1894年1月18日)

8月16日

聖なる見張り番

「そして、神のみまえには、あらわでない被造物はひとつもなく、すべてのものは、神の目には裸であり、あらわにされているのである。この神に対して、わたしたちは言い開きをしなくてはならない。」(ヘブル 4:13)

あらゆる場所に、また一日のあらゆる時間に、すべての行為を量られる聖なる見張り番がいる。その目は、忠実な者であろうと、あるいは、不忠実で欺く者であろうと、すべての状況を見ておられる。

わたしたちは、決して一人だけではない。わたしたちには選ぶと選ぶまいと聖なる友がいる。青年男女よ、あなたがたはどこにしよう、何をしようそこに神がおられることを覚えなさい。あなたのすべての言葉や行為に対して、一人の証人すなわち一聖くて、罪を憎まれる神一がおられるのである。語られたこと、なされたこと、考えられたことは一つとして、主の無限の目から逃れられない。あなたの言葉は、人間の耳には聞こえていないかもしれないが宇宙の支配者には聞かれている。主は、自分の意志が妨害されたその魂のうちに生じる怒りを読み取られる。主は神を汚すような表現を聞いておられる。最も深い暗黒や孤独の中でも主はそこにおられる。だれも神を欺くことはできない。だれも主に対する自分の責任から逃れることはできない。

「聖歌隊の指揮者によってうたわせたダビデの歌 主よ、あなたはわたしを探り、わたしを知りつくされました」と詩篇記者は書いている。「あなたはわがすわるをも、立つをも知り、遠くからわが思いをわきまえられます。あなたはわが歩むをも、伏すをも探り出し、わがもろもろの道をことごとく知っておられます。……『やみはわたしをおおい、わたしを囲む光は夜となれ』とわたしが言っても、あなたには、やみも暗くはなく、夜も昼のように輝きます。あなたには、やみも光も異なることはありません」(詩篇 139:1-12)。

日々、あなたの言葉や行動、またあなたの影響が天の書に記録されている。あなたは、この記録に直面しなければならない。(ユース・インストラクター 1898年5月26日)

全天は、わたしたちの救いに関心を持っている。神のみ使いたちは、……人間の行為を記録している。彼らは、神の覚えの書に、信仰の言葉や愛の行為、また心の謙遜さを記録している。そして、すべての人のわががどんなものであるかが試されるその日に、キリストに従う謙遜な者の働きは試験に合格し、天の称賛を受ける。「そのとき、義人たちは彼らの父の御国で、太陽のように輝きわたるであろう」(マタイ 13:43)。(ビュー・アンド・ヘルド 1890年9月16日)

力ある解放者

「よからぬ道に歩み、自分の思いに従うそむける民に、わたしはひねもす手を伸べて招いた。」(イザヤ 65:2)

主なる神は、キリストを通して乏しい者を招くために、終日、み手を伸べておられる。主はすべての者を受け入れられる。主は、すべての者を迎え入れてくださる。主は、だれも拒まれない。罪びとのかしらが許されることは、主の栄光である。主は、勇士からぶんどり物を取り返し、捕虜を解放される。主は、炎から燃えさしを取り出される。主はご自分の恵みという金の鎖を人間の不幸と罪の最大の深みにまでおろされて、罪に汚され、墮落した魂を引き上げられる。しかし、人は神が彼に与えてくださった機会を用いることにより、そこに来て自分の魂を救う働きにおいて、協力しようと決心しなければならない。主は、だれも強制なさらない。キリストの義というシミのない婚礼の服は、罪人に着せるように準備されている。しかし、人がそれを拒むならば、彼は滅びるほかはない。(手紙 22,1892年)

過去の記録は、主「キリスト」の血によって消されて、そのページはきれいに、白くされる。「主は言われる、さあ、われわれは互に論じよう。たといあなたがたの罪は緋のようであっても、雪のように白くなるのだ。紅のように赤くても、羊の毛のようになるのだ」(イザヤ 1:18)。……

イエスの唇からもれた「あなたの罪はゆるされたのだ」(マタイ 9:2) という言葉は、わたしたちにとって、何ものにもかえがたい価値を持っている。わたしは、カルバリーの十字架の上でわたし自身の肉体にあなたの罪を負ったと主は言われる。主はあなたの悲しみをご覧になる。主の手は、すべての悔い改めた魂の上に置かれている。そして、イエスは、天父の前でわたしたちの仲保者、わたしたちの救い主となられる。謙遜な悔い改めた心は許しを得る。……

わたしたちは、主のやさしいあわれみを、罪の迷路でさまよっている他の人に繰り返すことができる。わたしたちに表されたキリストの恵みは、他の人にやさしくあらわされなければならない。大いなるやさしさとあわれみは、まだサタンとの支配の下にある人間の魂を満たす。キリストは、主を信じるすべての男女の中で、広まっていくべきである。なぜなら彼らは他の人の心を祝福し、啓発し、また望みと平和と喜びをもたらすその心にキリストの人生を送るべきだからである。(同上 120,1893年)

8月18日

種まきの時代

「そこで、あなたは若い時の情欲を避けなさい。そして、きよい心をもって主を呼び求める人々と共に、義と信仰と愛と平和とを追い求めなさい。」(テモテ第二 2:22)

わたしは、低い標準に到達することに甘んじようとする青年男女に告げたいと願う。ああ、主が、品性の完全さとは、どういうものであるかを彼らの心を知るように影響を与えてくださるように。彼らに愛によって働き、魂を清める信仰を知らせてくださいますように。わたしたちは危機の時代に生きている。キリストだけが、わたしたちを助け、勝利を与えることができる。キリストこそわたしたちにとってすべてのすべてでなければならぬ。彼は心に住まわれねばならない。彼の命がちょうど血液が血管を循環するようにわたしたちの中を循環しなければならぬ。彼の霊が、生命を与える力でなければならぬ。(ユース・インストラクター 1895年10月31日)

愚かな罪深い行動で毒麦をまくことは決して賢いことではない。そのような行動は他の人を同じような行動に導くだけでなく、あなた自身の刈り入れの時に苦い収穫をもたらすことになる。主は「……人は自分のまいたものを、刈り取ることになる。すなわち、自分の肉にまく者は、肉から滅びを刈り取り、霊にまく者は、霊から永遠のいのちを刈り取るであろう」(ガラテヤ 6:7,8)と言われる。青年時代は、種まきの時代である。若い頃の言葉と行為は、その種類に従って芽を出し、収穫をもたらす種のようなものである。だから親切、愛、信仰、忍耐、自己否定、真の慈愛の種をまき、あなたの激しい感情をすべて抑制しようではないか。このような種まきは、その種類に従って収穫を生み出す。すべての言葉と行為が、よい実をもたらす種となるようにしなさい。

もしあなたが、神の助けと恵みを求めるならば、聖霊は、あなたの心と品性を支配し、自分に対し、また他人に対して益となる働きをなさせてくださるのである。(同上)

主は、青年を愛しておられる。主は、彼らの内に大きな可能性をご覧になっており、もし彼らが主の助けの必要性に気付いて、動かされることのない品性の基礎を置きさえすれば、彼らが高い標準に達するように、助けようとしておられるのである。(同上 1894年1月18日)

神の、心を探る御目の下に

「すなわち、あなたがたは、以前の生活に属する、情欲に迷って滅び行く古き人を脱ぎ捨て、心の深みまで新たにされて、真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。」(エペソ 4:22-24)

罪深い生活習慣の下で苦闘しているすべての魂が、罪から自由にされるために備えがなされてきた。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」(ヨハネ 1:29)。クリスチャンは、自分の罪深い習慣を持ち続け、品性の欠点を温存すべきではない。そうではなく、神にかたどって自分の心の深みまで新たにされるべきである。あなたの欠点がどのような性質のものであろうとも、主の御霊は、それを気付かせてくださり、あなたがそれに勝利できるように恵みが与えられる。キリストの血の功績によって、あなたは勝つことができる。確かに勝ち得て余りあるのである。……

主に自分自身を見させてくださるよう求めなさい。あなたの生活を主の、心を探る御目の下におきなさい。主があなたのことにかかわってくださる時、あなたは、自分が重要でないと思っていたことが、天の目には、不快なものであることを知るであろう。あなたは、品性の徹底的な変化が疑う余地なく必要であることを知るであろう。あなたは、自分の悪い行いを捨て去り、そして救いを受け継ぐ人々に奉仕するために送られる天のみ使いと神に協力しなければならないということを知るであろう。……

自我は、死ななければならない。世の中では害がないと思われていたとしても、すべての有害な傾向を持つ行為や習慣はそれに勝利するまで戦われなければならない。……その結果人間が神の模範に従って、品性を完全なものとするのできるのである。

わたしたちの回りにいる人々の不正な方法やよこしまな行為が、わたしたちの敬神さの輝きを曇らせたり、わたしたちのしきたりを世のしきたりに順応させたり、わたしたちの習慣や、行為を世のそれと同じものにするようであってはならない。神の息子、娘であると主張する者は唇から次の祈りが出るようにさせなさい。「神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知り、わたしを試みて、わがもろもろの思いを知ってください。わたしに悪しき道のあるかないかを見て、わたしをどこしえの道に導いてください」(詩篇 139:23,24)。(ユース・インストラクター 1894年6月7日)

8月20日

悔い改めた者に対するあわれみ

「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる。」(ヨハネ第一 1:9)

すべての人々は、誤りに陥りやすい。また、すべての人々が、過ちを犯し罪に陥る。しかし罪を犯した者が、自分の間違いを知ることを望み、罪を悟らせる神の御霊によってはっきりと示された通りに、謙遜な心でそれを告白するならば、彼は、元通りに回復されるのである。

イエスが、ご自分を愛するすべての者のために用意に行かれた住まいには、罪から自由にされた人々が住むのである。しかし、告白されていない罪は決して許されることがない。このようにして神の恵みを拒む者の名は命の書から消し去られる。すべての隠れた事柄が裁きに持ち出される時は間近に迫っている。そして、その時は世界を驚かすような多くの告白がなされるであろう。すべての心の秘密はあらわにされる。罪の告白は公衆の前にさらされる。悲しいことには、人々のなす告白が悪事を働いた者を助けたり、また欺瞞から他の人を救うのにはあまりにも遅すぎるということである。それはただ彼の有罪の宣告が正しいということをあかしするだけである。……あなたはあなたの罪を告白することから逃れるために、今、あなたの覚えの書を閉じるかもしれない。しかし、裁きが始まり、書が開かれる時、あなたはその書を閉じることはできない。記録の天使は真実であることをあかししてきた。あなたが隠そうとしたり、忘れようとしたすべてのことが記録されており、過ちが正されるにはすでに遅すぎる時になって、あなたに向かって読み上げられる。……あなたの罪が取り消されない限り、その罪はその日にあなたに対して不利な証人となるのである。(ビュ・アソ・ハルト 1890年12月16日)

預言者ダニエルは告白と謙遜な魂をもって主を求めていた時、主の近くに引き寄せられた。彼は自分自身も自分の民をも、弁解しようとせず、むしろ彼らの罪のすべてを認めた。彼らのために彼は自分では犯していなかった罪を告白し、神の憐みを求めた。そして、それにより彼は彼の兄弟たちがその罪を認めるようにと導いた。……

真の悔い改めをもって神を求める者に対して、神は保証を与えられる。「わたしはあなたのとがを雲のように吹き払い、あなたの罪を霧のように消した。わたしに立ち返れ、わたしはあなたをあがなったから」(イザヤ 44:22)。(同上)

敗北から勝利へ

「だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互いのために祈りなさい。」
(ヤコブ 5:16)

すべての人は過ちを犯しやすい。それゆえに神のみ言葉は、これらの失敗を正し、癒す方法を、わたしたちにはっきりと教えている。自分は決して失敗しないとか、全く罪を犯したことがないとかだれ一人言うことができない。しかし、あなたがこれらの悪をどのように取り扱うのかを考えることは重要な事である。使徒パウロは常に彼は神に仕えていると信じて悲しむべき過ちを犯した。しかし、主の御霊が、真の光の内に彼の前にそのことを示されたときに、彼は自分の悪事を告白し、後に自分の罪の許しにおける神の大いなる憐みを認めた。あなたもまた自分では完全に正しいと思いながら誤りを犯していたかもしれない。しかし、あなたの誤りが示された時に、心をへりくだらせ、自分の罪を告白するのは、あなたの義務である。……

あなたの罪の性質が何であろうとそれを告白しなさい。もし、それがただ神に對するものであれば、神にだけ告白しなさい。もし他の人に悪いことをしたり、または罪を犯したのであるなら、彼らにもまた告白しなさい。そうすれば、主の祝福はあなたの上にとどまる。この方法によって、あなたは自己に死に、あなたの内にキリストが形づくられる。……

サタンの誘惑の下で、人が過ちに陥り、彼らの言葉や態度がキリストのようではない時、彼らは、自分の状態を悟らなくなる。なぜなら罪が人を欺き、道徳的知覚力を鈍くするからである。しかし、自分を吟味し、聖書を調べ、へりくだって祈る時に、聖霊の助けによって、自分の間違いを知ることができるのである。もし彼らがその時自分の罪を告白し、それから離れるならば、誘惑者サタンは、彼らに光の天使としてではなく、ただ欺くものとして姿をあらわすようになるのである。……

譴責と懲らしめを神からのものとして認め、自分の過ちを知って、正そうとする人々は、彼らの失敗からさえも貴重な教訓を学んでいる。彼らの表面上の敗北は、勝利に変わるのである。彼らは自分の力に頼るのではなく、神の力を信頼して立つ。彼らは神のみ言葉の教訓によってバランスのとれた、謙遜と一つになったまじめさと熱心、また愛情を持つのである。……彼らはよろめきながら歩くのではなく、天からの光が照らしている道を安全に歩くのである。(ビュー・アンド・ワルド 1890年12月16日)

8月22日

誘惑に対する強力な防御

「主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである。」(ヘブル 2:18)

わたしたちの救い主は、人類の必要を完全に理解された。自らへりくだって人の性質を取られた主は、人間の弱さを知っておられた。キリストはわたしたちの模範として生活された。主はあらゆる点において、わたしたちと同じように誘惑をお受けになった。それは試練の中にある者たちをどのようにして助けるかをお知りになるためであった。主はわたしたちの前に、人生の旅路を歩まれ、わたしたちのために最も厳しい試練に耐えられた。主は悲しみの人で、病を知っておられた。……

キリストは、わたしたちの弱さをご自分に負われ、人性の弱さの中で天父からの力を求めることを必要とされた。森の中や、湖のほとり、山の中で、熱心に祈りをささげておられる主のみ姿が、しばしば見られた。主はわたしたちに目を覚まして祈るようにお命じになった。……神からの助けを心の底から必要だと感じなければ、神の助けを求める熱心な、心からの祈りは生まれえない。わたしたちの心はだまされやすく、またわたしたちの敵は多くて注意深く見張っているのである。もしわたしたちが自分の品性のただ一つの弱点でも強化することをおろそかにするならば、サタンは、その一点を誘惑することによって、わたしたちを激しく攻撃してくる。彼はわたしたちの魂の破滅を常にたくらみ、わたしたちの不注意な防備につけこもうとしている。

キリストはこの人類の敵と単独で戦い、そしてサタンの支配から人類を奪い返すために、この世界へおいでになった。この目的を達成するために、主はご自身の命さえ惜しまれなかった。そして今、キリストがお与えになる力によって、人はずるくて陰謀を企てる敵に対して忠実な見張り人として、自分で立たなければならない。偉大な使徒が「歩きかたによく注意して」といったように、魂のすべての道を守り、イエスを真の、また完全な模範として見上げなさい。そして、主の模範をその中のたった一つか二つを模倣するのではなく、すべての点において同じ姿になるよう求めなさい。その時わたしたちは、いかなる、またあらゆる危急にも備えることができるのである。……神を常に心に思うことを愛する人は、強力な防備を持っている。彼は霊的生活を脅かす危険に速やかに気付き、そして危険を感じることによって、神に助けと保護を求めるように導かれるのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1881年10月11日)

罪から逃れる方法

「だれかあなたのように不義をゆるし、その嗣業の残れる者のためにとがを見過ごされる神があらうか。神はいつくしみを喜ばれるので、その怒りをながく保たず。」
(ミカ 7:18)

わたしは、感情が神の子ではないという証拠ではないことを、本当に喜ばしく思う。あなたは神からあなたを引き離すようなことをしたので、神はもうこれ以上あなたを愛されないと敵はあなたに考えさせようとする。しかし主は、それでもわたしたちを愛してくださるのである。……

あなた自身から目を離して、キリストの完全さを見なさい。わたしたちは自分自身のために義を作ることはできない。キリストはみ手に義の清い衣を持っておられ、それをわたしたちに着せてくださるのである。主は許しと約束のやさしい言葉をお語りになる。主はわたしたちのかわいている魂に、それによってよみがえらせてくださる生ける水の泉をお与えになる。主は、わたしたちのすべての重荷、すべての悲しみを持ってご自分のもとに来るようにと命じられる。わたしたちは、そこで休息を見い出すであろうと仰せになる。……

イエスは、過去に犯した罪をご覧になり、ゆるしの言葉をお語りになる。そしてわたしたちは主の愛を疑うことによって、主を辱めてはならない。この罪があるという感情は、カルバリーの十字架の足元におかなければならない。罪深いという意識は、命と、真の幸福の泉を毒してしまう。今イエスは仰せになっている。「それをすべてわたしに買わせなさい。わたしはあなたの罪を取り去ってあげよう。あなたに平安を与えよう。わたしはわたし自身の血の価であなたを買い取ったのでこれ以上あなたは価値を下げてはならない。あなたはわたしのものである。あなたの弱くされた意志をわたしは強くしてあげよう。あなたの罪に対する苦しみを取り去ってあげよう」と。その時、不安におののいていたあなたの感謝の心は、主に向けられ、あなたの前に置かれた希望をつかむ。神はあなたの砕けた、悔い改めた心をお受入れになり、あなたに無条件の許しを差し出される。主はあなたを主の家族としてくださり、恵みによってあなたの弱さを助けようと申し出られる。そして救い主が一步一步あなたを導き、あなたは主に手を取って導いていただくのである。

神の尊い約束を探しなさい。もしサタンがあなたの心の前に脅迫をつきつけるなら、それらに背を向け、み約束にすがりつきなさい。あなたの魂をそれらの輝きによって慰めなさい。雲はそれ自体は暗いが、しかし、光で満たされる時に黄金の輝きに変わる。なぜなら神の栄光がそこにあるからである。(手紙 99,1896年)

8月24日

神の規律のもとに

「だれが自分のあやまちを知ることができましようか。どうか、わたしを隠れたとがから解き放ってください。」(詩篇 19:12)

わたしたちは自分の欠点を知ることができるために、神の律法の光の内で行動をするようにわたしたちを促す動機の性質について学ぶ必要がある。しかし人間が自分の罪を知る時に、例えば彼が義の命令によって有罪の判決を受けていることを知っても、落胆すべきではない。彼は罪の罪深いことを知って、それを認め、悔い改めて、個人的救い主としてキリストに対する信仰を持つべきである。

わたしたちが、自分に徳があると感じたり、品性がすぐれていることや敬虔で純潔である現在の状態を自分で喜んだりすることは、決して安全なことではない。ダビデは、神にあつて幾度も勝利したが自分の無価値と罪深さをいつも考えていた。彼の良心は、眠ったり、また死んだりしていなかった。彼は「わたしの罪はいつもわたしの前にあります」と叫んだ(詩篇 51:3)。……彼が自分の心の中にある偽りの深さを知った時、自らを深く厭い、主のみ力によってこの執念深い罪から彼を防ぎ、そして隠れた罪から清めてくださるようにと、神に祈ったのである。

わたしたちにとって、目を閉じ、良心をかたくなにすることは、自分の罪を知ったり、認めたりしなくなるので、安全ではない。わたしたちは、自分の罪を真に告白し、捨てることができるために、罪の憎むべき性格に関してわたしたちが持っている知識を大事にする必要がある。「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」(ヨハネ第一 1:9)。あなたは喜んですべての不義から清めていただくであろうか?……

もしあなたが、教育において、また霊的事柄において、新しい高さに到達することを求め、熱心に前進し向上しているなら、あなたに要求されていることを理解する識別力を持つであろう。あなたはあなたの弱点のすべてを助けてくれる聖霊を持つであろう。青年にとっては楽しみを愛するのは自然である。……しかし、魂を神に対する規律の下に置くことによって生来の傾向に勝利しなければならぬ。……イエス・キリストの力と恵みの内にしっかりと、ためらわず歩きなさい。(ユース・インストラクター-1894年7月5日)

神がお許しにならない罪

「だから、あなたがたに言うておく。人には、その犯すすべての罪も神を汚す言葉も、ゆるされる。しかし、聖霊を汚す言葉は、ゆるされることはない。」(マタイ 12:31)

「御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである」(ヨハネ 第一 1:7)。たとえ人がどのように罪深かったとしても、また、どのような立場であったとしても、もし彼が悔い改めて信じ、キリストのもとへ行き彼を自分の個人的救い主としてより頼むならば、その人は全く救われるのである。……

わたしは、神がお与えになる光の内に歩むことを拒む人々の危険を知っている。彼らは自分の判断に従って事をなし、自分の道を歩むままに放っておかれるという恐ろしい危険の中に自分自身を置くのである。良心は感受性が段々少なくなっていく。神のみ声はだんだん遠くなっていき、悪を行う者は自分が夢中になっている事柄のまま放っておかれる。彼は頑固にあらゆる訴えに反抗し、すべての助言や忠告を軽蔑し、彼の救いのためになされた、すべての備えから身をそらしてしまう。……神の御霊は、もはや彼を抑制する力を働かせない。そして、彼は「偶像に結びつらなった。そのなすにまかせよ」(ホセア 4:17)。……これは聖霊の働きを拒む魂が進む過程である。……

だれも聖霊に対する罪を、何かあいまいな、また不思議なものとして見る必要はない。聖霊に対する罪は、悔い改めへの招きに答えることをいつまでも拒絶する罪である。もし、あなたがイエス・キリストを個人的救い主として信じることを拒むならば、あなたは光よりも暗闇を愛することであり、あなたは最初の大背教者を取り巻いている雰囲気を選んだのであり、神はあなたが選択したものをを持つことを許される。しかし、どの魂もこのような事柄によって失望しないようにしよう。主のみ心をなそうと努力している者がだれひとり倒されることのないようにしよう。(ビュー・アソッド・ワールド 1897年6月29日)

あなたの心を尽くしてイエスのもとに来なさい。あなたの罪を悔い改め、神に告白しなさい。すべての悪を捨てなさい。そうすれば主のみ約束をすべてあなたのものにする事ができる。「わたしを仰ぎのぞめ、そうすれば救われる」というみ言葉は、主の恵み深い呼びかけである(イザヤ 45:22)。(教会への証 5巻 634)

8月26日

神の御霊を軽蔑する

「神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。」(エペソ 4:30)

主が証拠に証拠を提供され、光に光をお与えになっている時に、どうして人々は、光の中を歩くのをためらうのだろうか。……あらゆるためらいや遅延によって、わたしたちは天の光を、受け入れることがますます困難な場所へ自分自身を置き、ついには忠告や警告に感動を受けるのが不可能と思われるようになってきてしまう。罪人は、ますますたやすく、「きょうはこれで帰るがよい。また、よい機会を得たら、呼び出すことにする」と、言うようになるのである(使徒行伝 24:25)。
……

何度も贖い主に引き寄せられ、与えられた警告を軽んじ、自分の罪の自覚に対して、悔い改めをしようともせず、許しと恵みを求めるように熱心に勧められても心にとめない人は、危険な状態にいる。イエスは彼を引き寄せておられ、聖霊は、キリストの力を彼に感じさせ、自分の意志を神のみ心にゆだねるように熱心に懇願している。そしてこの招きが無視される時、聖霊は悲しみのうちに去らざるをえないのである。罪人は、たとえ彼が自分の信仰を励ます証拠を持ち、また、良くないことをするもっと多くの証拠があったとしても、罪のうちに悔い改めないままにとどまることを選ぶのである。……彼が応じているもう一つの引き寄せる力があって、それはサタンの誘いである。彼は暗黒の力に服従しようとするのである。この進路は致命的であり、魂は頑固に悔い改めないまま残される。これは人々の間で最も一般的な神への不敬である。そして罪人が良心の呵責を感じなくなり、悔い改めず、その結果として許しがなくなるまで、それはもっとも巧妙な方法で働く。……

神の御霊に逆らう人々は、彼らが改革へ向かつてはっきりとした一步を踏み出す用意ができる未来のいつかに悔い改めようとするが、しかしその時悔い改めは、彼らの手の届かないところにある。光を持っている間に光のうちに歩むことを拒む人々の暗闇は、その光と特権に応じて与えられる。……

自分に与えられた機会を好きに粗末に扱ってかまわないとは、決して、決して思ってはならない。神のみ心を学びなさい。神の戒めを守ることをどのようにして避けることができるかを学んではならない。むしろ戒めを誠実と真実とをもっていかに守り、あなたの所有主である方にいかにして忠実に仕えることができるかを学びなさい。(レビュー・アンド・ワルト 1897年6月29日)

サタンにいかに立ち向かうか

「そういうわけだから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ちむかいなさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう。」(ヤコブ4:7)

わたしたちの仕事は悪魔の疑念を心に抱くことではなく、「悪魔に立ち向かう」ことであり、もしわたしたちがこれを行うなら、その約束は「彼はあなたがたから逃げ去るであろう」である。

しかし、わたしはどのようにして悪魔に立ち向かうことができようかという質問がしばしば起こる。あなたがこうすることのできる唯一の方法がある。それは信仰によってであり、キリストをあなたの助け手として、力を主に懇願することである。サタンがあなたの心に疑いをほめめかす時、またあなたが神の祝福を得るには、あまりにも価値がなく、罪深いと告げる時、キリストをあなたの弁護人また救い主として彼の前に示しなさい。あなたは自分が罪人であることを知っているが、イエスは失われた者を尋ね、救うためにおいでになったのだとサタンに告げなさい。主は「義人を招くためではなく、罪人を招くため」においでになった(マルコ2:17)。

主のみ約束をくりかえしなさい。「わたしに来る者を決して拒みはしない」(ヨハネ6:37)……「わたしの保護にたよって、わたしと和らぎをなせ、わたしと和らぎをなせ」(イザヤ27:5)。「また、祈るとき、信じて求めるものは、みな与えられるであろう」(マタイ21:22)。これらの神のみ約束を信じる単純な心を持ちなさい。サタンがあなたのところに来て、あなたが不幸で、途方に暮れて、当惑しているのであなたは神の子供でないと告げる時に、少しも落胆しないで、あなたの心を引き締めなさい。あなたの心を神に頼らせなさい。主は、もしあなたがご自分のみもとに来るならば、魂の休息を見出すであろうと約束しておられる。そして、もしあなたがそのようにするなら、主はあなたのうちにみ言葉を成就し、平安が保証されている。……

多くの人々は彼らが願うようには感じないために、長年の間暗黒と疑いのうちに過ごしている。しかし感情は、信仰と全く関係がない。愛によって働き魂を清める信仰は、衝動的なものではない。それは、主が仰せになったことは必ず成し遂げられるということを固く信じ、神のみ約束を実行することである。わたしたちの魂は、神のみ言葉に頼るよう教えられ、信じるよう訓練されるであろう。このみ言葉は、「義人は」感情によってではなく「信仰によって生きる」と宣言している(ローマ1:17)。(ユース・インストラクター 1897年7月8日)

8月28日

神に近づく

「神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて下さるのである。」
(ヤコブ4:8)

わたしたちは神に近づくということが何を意味するのかを理解しようと努めるべきである。わたしたちは主から遠く離れて立つのではなく、主の近くに来るべきである。なぜなら、遠くに立つと主の聖なる御霊の感化を受けることができないからである。キリストのみ前に来た人々は、主に近づき、主を取り巻いている雰囲気の中でもっと快く呼吸することができ、主の精神を捕え、そして主の教訓によって感動するのである。わたしたちは厳粛で重大な仕事にたずさわっているので、主がわたしたちの心を感動させることがおできになれる素直な精神をわたしたちが持ち、主の引き寄せる力をわたしたちが感じることができるようになるために、謙遜な状態になれるよう求めるべきである。決してわたしたちが神に近づくのではなく、主がわたしたちを引き寄せておられるのである。(レビュー・アンド・ヘルド 1890年3月4日)

神は救いの相続人となる者を引き寄せることがすべての働きである天使たちを持っておられる。だれかがイエスに向かって一步近づく時はいつでも、イエスは彼に向かって歩み寄られる。天使の働きはサタンを制することである。(SDAパブリック・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7巻 922)

いつでも世に少しでも近づこうとし、感情においても、計画においても、理想においても彼らに似ようとする人々は、救い主と自分たちとの間に距離をおいている。そしてサタンは、このすきまに自分の方法を押し付け、低く、世的に汚れた、利己的な計画を彼らの経験と織り交ぜようとしている。(同上 949)

もしわたしたちが神に近づくならば、わたしたちは互いに近づくことになる。わたしたちは心をつなぐにせずと同じ十字架に近づくことはできない。キリストは主と天父が一つであられるようにご自分の弟子たちが一つとなるよう祈られた。わたしたちは心においても、理解においても一つとなるよう求めるべきである。わたしたちは神が御子によって栄光をお受けになったようにわたしたちによってあがめられるように、一つになることを求めるべきである。そして神は御子を愛されたように、わたしたちをお愛しになるのである。(レビュー・アンド・ヘルド 1890年3月4日)

神はあなたがたを愛しておられる。神はあなたがたを害するためにご自分に近づかせようと思っておられるのではない。とんでもない。ただあなたがたを慰め、喜びの油を注ぎ、罪が作った傷をいやし、サタンが砕いたところを結び合わせようとおられるのである。主は重苦しい心の代わりに讚美の衣をあなたがたに与えようと望んでおられるのである。(同上)

失敗に対して言い訳はない

「すべて神から生れた者は罪を犯さないことを、わたしたちは知っている。神から生れたかたが彼を守っていて下さるので、悪しき者が手を触れるようなことはない。」(ヨハネ第一 5:18)

多くの人は神が彼らに対して持つておられるご要求を知るのに失敗する。彼らは自分が神の息子娘であることを公言するが、神の子供たちらしくふるまわない。彼らの暗黒の王子の黒い旗の下で仕えた時に真似るようになった習慣や風習……のようになった彼らの悪い習慣が、彼らの弱さの理由で、許されなければならないと主張する。そして「それが彼らの習慣だ」と言い張る。……彼らの品性の嫌な遺伝的特徴を彼らは偶像として持ち続けることを選んでいる。

魂が真に改心した時、キリスト・イエスにあって古い習慣や、生来の悪い弱点は捨てられ、すべてのことが新しくなる。キリストの僕であると公言する人々の間で、バビロンの宮廷においてダニエルが明らかにしたような熱心な目的が培われるべきである。ダニエルは神が彼の力であり、盾であり、前方、後方の護衛であられることを知っていた。彼はバビロンの宮廷で彼を取り巻く腐敗のただ中であって、彼をそそのかし、誘惑に引き込もうとする光景や騒ぎから影響されないように自分を守った。彼は仕事で大騒ぎの宴会や大酒また最も品位のない偶像礼拝の場に出席しなければならない時に、黙って祈る習慣を培っていたので神の力により支えられたのであった。神へ高められた心を持つことは、どのような時にも、どのような場所においても恵みとなる。……

世の賤い主を瞑想する習慣を培うようにしよう。……助けは力ある方の上に用意されている。イエスは、ご自分の命までお与えになった。それによってすべての人が彼から豊かな助けを受けることができるためである。……

これらの言葉を読むあなたがたは、「これはわたしの習慣です」と言うことによって、自分の品性の欠陥の言い訳を決して再びしようとはしないと決心するだろうか。だれも「わたしの生まれつきの習慣や傾向を変えることができない」などと言わないようにしよう。真理が心の中に入らなければならない。そうすれば、それは品性を清める働きをする。それは人生を潔め、高め、そしてあなたがたをイエスが彼を愛する者のために用意しに行かれた邸宅にはいるにふさわしいものにするのである。(ユース・インストラクター 1894年6月7日)

8月30日

魂の戦場

「あなたはわたしの全きによって、わたしをささえ、とこしえにみ前に置かれます。」
(詩篇 41:12)

ある人々は概して、罪をととても軽く見るので、放縦とその結果に対して防備がない。……ある者にとって宗教は全く感情の事柄である。あなたがたはしばらくの間熱情と献身の素晴らしさを見るが間もなく変化が訪れる。……彼らは刺激のある快樂—舞踏会やダンス、そしてショーを一口すすりたいのである。……

もしあなたが、一瞬間でも、神が罪を軽く取り扱われ、また準備されたり、免除されると想像し、だからあなたは罪を犯し続けることができ、魂はこのような行為の刑罰に苦しむことはないと考えるなら、それはサタンの恐ろしい欺きである。エホバの義の律法に対する故意の違反はどのようなものであっても、それはあなたの心をサタンの全力の攻撃にさらす。あなたが意識的な高潔さを失う時に、それはそのままサタンのための戦場となる。あなたはあなたの能力を麻痺させ、あなたを落胆させるに十分な疑いと恐れを持つ。神の恩恵は消え去る。ある者は……あなたが神の子であるという聖霊の証を失った代わりに、俗社会における世的な興奮でその場所を埋め合わせようとする。要するに、あなたがたは罪の深みに飛び込んでいるのである。……

誘惑は罪ではないことを覚えておきなさい。しかしながら人が置かれるかもしれないつらい環境は、彼が誘惑に屈しないで、彼自身の高潔さを維持する限り、何者も彼の魂を本当に弱めることができないということを覚えていなさい。あなたがた各自にとって最も重大なことは、あなたがた自身を守ることにある。あなたがたの同意なくして、だれも魂に損害を与えることはできない。あなたがサタンの矢に対して心を開かなければ、サタンの全軍もあなたを害することはできない。あなたが義を行うことにしっかりしていれば決して滅ぼされることはない。もしあなた自身に心の汚れがなければ、まわりのすべてのものが墮落していても、あなたを墮落させたり、汚したりできないのである。

永遠の命はわたしたちにとってすべてのものよりも価値があるか、もしくはまったく価値がないかである。自分が得ようとしている目的にふさわしい熱心な望みを持って、根気強い努力と不屈の熱情で進んでいく人々のみが、神の命で計る命を得るのである。(原稿 70,1894 年)

唯一の安全な道

「また、あなたが右に行き、あるいは左に行く時、そのうしろで『これは道だ、これに歩め』と言う言葉を耳に聞く。」(イザヤ 30:21)

神が彼らのために従うようにと選んでくださった道から踏み外すので、人間が多くの苦しみを受けていることをわたしは知っている。彼らは自ら灯した火花の中を歩む。そして、その結果は、苦悩、不安、悲しみである。これらは、もし彼らが神に自分の意志を従わせ、彼らの道を主が支配して下さるようゆだねていたならば避けることもできたものである。神はわたしたちの意志と、わたしたちの方法に反対することが必要であることを知っておられ、人間の意志を服従へと導かれる。

神がわたしたちのために定めてくださった道はどんな道であっても唯一の安全な道である。わたしたちは毎日、子供のように純潔な従順の精神を抱き、神のみ心のしるしを識別することができるように、天の目薬を塗っていただけるよう祈るべきである。それは、わたしたちの意志がすべて支配しているように思えるので、自分の考えで混乱することのないためである。信仰の目を持ち、従順な子供のように素直に服従して、わたしたちは神を見つめ、主の導きに従うべきである。そうすれば困難は消え去ってしまう。み約束は、「わたしはあなたを教え、あなたの行くべき道を示し、わたしの目をあなたにとめて、さとすであろう」である(詩篇 32:8)。……

わたしたちが神に尋ねる前に、自分たちの計画をすべて作り上げてから神に持って行くのではなく、もしも従順に教えていただく気持ちで、信仰を持って、謙遜に素直な心で神のみ許へわたしたちが行くなら、一日のあらゆる時間に主のみ約束を求めることができる。これは、わたしたちの特権である。わたしたちは自分自身を信用できないので、心や、計画や、思いが、主の道からそれないように、自分の傾向や強い性癖を見張っていただく必要がある。……

わたしたちの天父はわたしたちを支配なさるおかたである。であるから、わたしたちはこのお方の訓戒に従わなければならない。わたしたちは主の家族の一人である。彼はわたしたちの奉仕を受ける権利を持っておられる。それで、もしこの家族の一人が自分自身の方法を選ぶと主張し続け、また自分の気に入る事だけをすると主張し続けるなら、その精神は物事の混乱と困惑の状態を引き起こす。わたしたちは自分自身の道を進むことを学ぶのではなく、神の道、神のみ心を学ばなければならない。(手紙 6,1894年)

研究 1

神の栄光ともう一つの声



「神の栄光ともう一つの声」

イザヤ 43:7

「すべてわが名をもってとなえられる者をこさせよ。わたしは彼らをわが栄光のために創造し、これを造り、これを仕立てた」(創世記 43:7)。

「この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた」(黙示録 18:1)。

創造の時に人は神の栄光の衣をまとっていました。それが神の始めからのご目的だったからです。ところが、人は罪によってその栄光を失いました。しかし、贖いの計画が完成するときには、再び、神の栄光が全地を照らします。しかも、全地を照らすのは、御座から直接輝く光ではなく「彼の栄光」であるのをヨハネは見ました。その預言の成就すべき時代に生きているわたしたちが、その栄光にあずかることができますようにと切に願いつつ、この学びを始めていきたいと思えます。

この学びでは次の主題をもって学んでいきます。

1. なぜわたしが存在するのか？
2. 神の栄光とは何か？
3. 歴史において、どのように神の栄光が表されたか？
4. 被造物が神の栄光を自分のものにすることが罪である
5. そして、神の栄光に関する預言は何か？

1. なぜわたしが存在するのか？

◆創造の目的と創造主の栄光

(創造された created = 造られた formed = 仕立てられた made)

「すべてわが名をもってとなえられる者をこさせよ。わたしは彼らをわが栄光のために創造し、これを造り、これを仕立てた」(イザヤ 43:7)。

「主なる神は土のちりで人を造り (formed)」(創世記 2:7)、 「その造った人 (formed) をそこに置かれた」(創世記 2:8)。

「神はその第七日を祝福して、これを聖別された。神がこの日に、そのすべての創造 (created and made) のわざを終って休まれたからである」(創世記 2:3)。これが、安息日の目的そのものです。安息日はこれを忘れないために与えられました。つまり、神がご自分の栄光のために人を創造し、造り、仕立てられたそのわざを覚えて、感謝し、喜ぶ一人が真に生きる一ためでした。

それは、ちょうど陶器師が、器を作るのと同様です。陶器が土で作られるように、人は「土のちり」で造られました。しかし、その器は造ったお方のみ旨通りに仕立てられ、「神のかたちに創造」されたので、創造主の栄光を表していました。

神の栄光、これが本来、人が存在する目的なのです。この輝かしい存在が人でした。

「神が造ったすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かった」(創世記 1:31)。

すべての人は罪を犯した、そしてその結果

「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており」(ローマ 3:23)。

罪を犯したとき、神の栄光を受けられなくなった、神の栄光に足りないものとなったとあります。それでは、罪とは何でしょうか？

「神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁解の余地がない。なぜなら、彼らは神を知っていながら、神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからである。彼らは自ら知者と称しながら、愚かになり、不朽の神の栄光を変えて、朽ちる人間や鳥や獣や這うものの像に似せたのである」(ローマ 1:20-23)。

自分の造り主を認めず、神の栄光を認めないことが、罪です。

「すると、どうなるのか。わたしたちには何かまざったところがあるのか。絶対にない。ユダヤ人もギリシヤ人も、ことごとく罪の下にあることを、わたしたちはすでに指摘した」(ローマ 3:9)。

ここにあるユダヤ人とは、だれでしょうか。「だから、ああ、すべて人をさばく者よ。あなたには弁解の余地がない。あなたは、他人をさばくことによって、自分自身を罪に定めている。さばくあなたも、同じことを行っているからである」(ローマ 2:1)。

さばく者、すなわち法律を知っている者です。「では、ユダヤ人のすぐれている点は何か。…それは、いろいろの点で数多くある。まず第一に、神の言が彼らにゆだねられたことである」(ローマ 3:1, 2)。神の言、律法がゆだねられたにもかかわらず、「同じことを行っている」すなわち、従わない人々のことです。

では、ギリシヤ人とはだれでしょうか。

「神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。…彼らは神を知っていながら、神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからである。彼らは自ら知者と称しながら、愚かになり、不朽の神の栄光を変えて、朽ちる人間や鳥や獣や這うものの像に似せたのである」(ローマ 1:20-23)。

神の栄光のために、神に「造られた」者であるにもかかわらず、創造主を「神としてあがめず、感謝もせず、かえって」「不朽の神の栄光を変えて」、神の栄光に足りないものになっている人々です。

つまり、すべての者が罪の下に、すなわち神のさばきの下にあります。

「さて、わたしたちが知っているように、すべて律法の言うところは、律法のもとにある者たちに対して語られている。それは、すべての口がふさがれ、全世界が神のさばきに服するためである」(ローマ 3:19)。

そして、神の栄光に足りなくなっている (come short) ことを、ヘブル 4 章 1 節では、「はいりそこなう (come short)」ことだとあります。これが、罪です。

「善を行い、罪を犯さない正しい人は世にいない」(伝道の書 7:20)。

「すなわち、神はすべての人をあわれむために、すべての人を不従順のなかに

閉じ込めたのである」(ローマ 11:32)。

「しかし、約束が、信じる人々にイエス・キリストに対する信仰によって与えられるために、聖書はすべての人を罪の下に閉じ込めたのである」(ガラテヤ 3:22)。

「もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにはない」(ヨハネ第一 1:8)。

これが、わたしたちすべての者の状態です。

では、どのようにしてこの罪の状態—神の栄光を受けられない状態—から救われるのでしょうか？

“再—ふたたび—新たに”の必要性

「だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」(ヨハネ 3:3)。

「だれでもキリストにあるならば、その人は新しく造られた者である。古いものは過ぎ去った、見よ、すべてが新しくなったのである」(コリント第二 5:17)。

「ヤコブよ、あなたを創造された主はこう言われる。イスラエルよ、あなたを造られた主はいまこう言われる、『恐れるな、わたしはあなたをあがなった。わたしはあなたの名を呼んだ、あなたはわたしのものだ。』」(イザヤ 43:1)。

始めに神の栄光のために創造され、造られ、仕立てられました。それと全く同様に、再び神の栄光を受けるためには、再び創造される必要があります。

| | | | |
|--------|---|-----------|--------|
| Create | — | Re-create | (再創造) |
| Form | — | Re-form | (改革) |
| Make | — | Re-make | (再び造る) |

始めの働きの後に、罪が入り込みましたが、神は「再び」「新たに」そのみわざを成し遂げられます。神のみ言葉の預言は、この終わりの時代に「神に栄光を帰せよ」と命じています。ヨハネは、そのみ言葉が成就しているのを見ました。

「すると、御座にいますかたが言われた、『見よ、わたしはすべてのものを新たにする。』」しかも、「書きしるせ。これらの言葉は、信ずべきであり、まことである」(黙示録 21:5)。

そして、地は彼の栄光で明るくされるのです。この働きにあずかろうではありませんか。

にご自分の上に積み上げられる侮辱をみな受けておられました。自分は本当に自分の主人を死に渡す裏切り行為をしたのではないかというおそろしい恐怖が裏切り者におとずれました。

裁判が終わりに近づくと、ユダは罪を犯した良心のおそろしい呵責(かしゃく)に耐えられなくなりました。突然、しゃがれ声が法廷のすみずみに響き渡り、そこにいたすべての人の心に恐怖の戦慄(せんりつ)を引き起こしました。

「ああカヤパよ、彼は無実です。助けてやってください。彼は死に値するようなことは何もしていません」

背の高いユダの姿がびっくりした群衆の中を突進していくのが見られました。彼の顔は青ざめ、やつれて、その額には大粒の汗が吹き出していました。彼は裁判長の席に走りよると、自分の主を裏切った代価である銀貨を大祭司の前に投げ捨てました。

彼は必死でカヤパの衣をつかみ、このお方は何も悪いことをされなかったのだと断言しながら、イエスさまを釈放するよう嘆願しました。カヤパは怒って彼を振り払い、さげすんで言いました。

「それは、われわれの知ったことか。自分で始末するがよい」(マタイ 27:4)。

それからユダは自身を救い主の足元に投げ出しました。彼はイエスさまが神の子であることを告白し、ご自身を敵から救い出して下さるようこのお方に嘆願しました。

救い主はユダが本当に自分のしたことに対して悔い改めたのではないことをご存知でした。この不誠実な弟子は自分の恐ろしい行為のために刑罰が下ることを恐れましたが、汚れのない神のみ子を裏切ったことに対して本当の悲しみを感じたわけではありませんでした。

しかし、イエスさまは彼に向かって何の非難の言葉も出されませんでした。このお方はユダを哀れんでごらんになり、

「この時のためにわたしはこの世にきたのだ」と言われました。

驚いたざわめきの声が集まっている人々の間を走りぬけました。彼らをご自分を裏切った者に対するキリストの寛容を驚きの思いをもって見ました。

ユダは自分の嘆願がむだであることがわかると、「遅すぎた、遅すぎた！」と叫びながら法廷を走り出しました。

彼はとても生きてイエスさまが十字架にかけられるのを見ることはできな
いと感じ、絶望のあまり、出て行って自ら首をつって死にました。

その後同じ日に、ピラトの裁判の法廷からカルバリーへの道中、邪悪な
群衆が救い主を十字架の処刑場へ連れて行っていました。突然、彼らの叫
びと嘲りがさえぎられました。彼らが奥まった場所を通り過ぎたとき、枯れ
た木の根元にユダの死体を見たのでした。

それは胸の悪くなるような光景でした。彼が木につるして首をつったひも
は、体の重みで切れていました。彼の体は落ちて無残につぶれ、犬どもが
今それをむさぼり食べていました。

彼の遺体はすぐ目に見えないところに埋められました。しかし、あざけり
は減り、多くの青ざめた顔は、内心の恐ろしい思いを表していました。イ
エスさまの血に対して罪を犯した人たちの上には、すでに報復がおとずれ
ているように見えました。

山形のだし

◆材料

| | |
|--------|------|
| きゅうり | 1本 |
| なす | 1本 |
| (香味野菜) | |
| みょうが | 1個 |
| しその葉 | 5枚 |
| 納豆昆布 | 5グラム |
| 新しょうが | 1片 |
| (調味料) | |
| 塩 | 少々 |
| しょうゆ | 大さじ2 |
| レモン汁 | 大さじ1 |
| 粗糖 | 小さじ1 |
| 粉末昆布だし | 小さじ1 |

◆作り方

1. きゅうり、なすを5ミリ角に切り、なすは水に5分ほどさらしてから、きゅうりとあわせ、塩をまぶして軽く混ぜておきます。
2. しょうがはみじん切り、他の香味野菜は粗みじん切りにします。
3. ボウルに具材を入れ、調味料を合わせます。
4. きゅうりとなすを軽く絞って加え、香味野菜と納豆昆布を合わせて、味がなじむまで10分ほどおきます。
5. 昆布の粘りが出てきたら、できあがりです。

最近よく見かけるだしを、おうちで作ってみませんか。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】 聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】 は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第41話

ユダ

ユダヤの役人たちはなんとかイエスさまを自分たちの権力の下におきたいと思っていましたが、人々の間に騒ぎが起こるのを恐れていたため、あえてこのお方を公にとらえようとはしませんでした。そこで彼らはひそかにこのお方を裏切る者を探していましたが、12人の弟子の一人であるユダを、すなわちこの卑劣（ひれつ）な行為をしようとする男を見つけました。

ユダは生まれつき金銭欲の強い者でしたが、このような行為をするほどいつも邪悪で墮落しきっていたわけではありませんでした。彼は強欲という邪悪な精神が、自分の人生の支配的な動機となるまで育ててきたため、今や自分の主を銀貨30枚（約17ドル）、すなわち奴隷の値段（出エジプト21:28-32）で売り渡すことができるまでになっていました。今や彼はゲツセマネにて、接吻（せつぶん）をもって救い主を裏切ることができるほどでした。

しかし、彼は神の御子が園からユダヤの役人たちの前の裁判所まで行かれたとき、一步一步このお方についていきました。彼はユダヤ人たちがおどしていたように、救い主が彼らに殺害（さつがい）されるのをお許しに

なるとは考えていませんでした。

一瞬一瞬彼は、このお方が過去と同じように神聖な力によって解放され、保護されるのを見るだろうと思っていました。しかし、数時間が過ぎても、イエスは静か



（44 ページに続く）